

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1172700492
法人名	社会福祉法人誠由会 ハピネス狭山
事業所名	社会福祉法人 グループホーム ハピネス狭山
所在地	〒350-1306 埼玉県狭山市富士見2-16-8 (電話) 04-2959-2618

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月12日

## 【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5階建ての5階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A.38,890円・B.41,280円	その他の経費(月額)	25,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (A.1,000,000円・500,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
または1日あたり 1,500円				

### (4) 利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	入間川病院、西武狭山歯科医院
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは住宅街の中にあり、大通りに面した5階建てのビルの最上階に位置している。1階はデイサービスセンター、2～4階はケアハウスとなっており、それぞれが独立して運営されている。また、ホームには見晴らしの良い屋上庭園があり、利用者も自由に出入りすることができるため、そこで野菜や草花を育てている。共用のリビングは床暖房で一部畳敷となっており、利用者と職員は一緒にゆったりと過ごし生活を楽しんでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、職員会議で全職員に周知し、話し合いながら改善に向けて努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については管理者と計画作成担当者が職員の意見を聞きながら作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催している。会議では運営課題や利用者の状況を報告しており、参加者から意見を頂いている。また、家族や利用者代表にも出席してもらい要望等を伝えてもらっている。会議の結果については全職員に伝達し、運営やケアに反映させるよう努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には月1回金銭の収支報告とあわせて個人レターを送付している。また、来訪時や電話等でこまめに連絡をとり、家族等からの意見や要望についてはミーティング時に伝え、ケアの向上に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、地域の祭りなどには積極的に参加している。小中学生の体験学習や高校生・大学生の実習、地域のボランティアなども積極的に受け入れて地域との交流を深める努力をしている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として「見守り」を掲げているが、不明確であり、今後より良い理念を作りあげるよう職員間で検討している。		理念の検討を行う際には地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域の一員として生活することを取り入れた内容が理念の中にうたわれることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時など折に触れ全職員で理念を確認し合い、日々のケアに反映されるよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加しており、小中学生の体験学習や学生の実習、地域の人達のボランティア(ヘアカット)等の受け入れも積極的に行い交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については管理者と計画作成担当者が職員の意見を聞いて作成し、業務見直しの一助となっている。外部評価については職員に周知を図り業務の改善に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。会議では施設の運営課題や利用者の状況等についての報告がされ、参加者から意見を出してもらっている。会議の結果については、ミーティングで職員と話し合い改善に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の事例検討会や情報交換会に出席している。また、事業所の運営上の問題や個別困難事例については、そのつど連絡をとり、相談・協議をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人の広報紙やホーム便りを発行するとともに、利用者一人ひとりの状況を個人レターで知らせている。また、月1回の家族による通院介助時に金銭の収支報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族と利用者も参加しており、意見や要望を聞いている。また、家族等の来訪時に表出された要望等もミーティングで検討し日々のケアの向上に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が多い時は不安定になる利用者もいるため、引継ぎを十分に行っている。また、離職した職員にボランティアで利用者と関わってもらうなど、利用者のダメージが最小限となるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に努力しているが、個々の能力や経験に応じた研修システムを構築するまでには至っていない。		職員の研修システムを構築することが望まれる。個々の職員の知識や経験、能力に応じた研修計画を作成し、資質向上を図ることが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する事例検討会や市内の事業所が集まる情報交換会に参加している。また、グループホーム協議会にも加入しており、今後は交流の機会をさらに増やしていく意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がホームの雰囲気に馴染めるように事前にホームを見学してもらうことから始め、安心してサービスの利用ができるように工夫しながら入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが得意なことや好きなことをできるように支援しており、職員は人生の先輩として利用者から色々なことを教えてもらっている。職員は利用者と一緒に生活を楽しむことを心がけながら支えあう関係を築いている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から意向を聞き、そのつど話し合っケアを実践している。意向の把握が困難な場合にも、できるだけ本人の視点に立って対応するように心がけ、本人の思いを汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわりの中で情報を収集するほか、家族の来訪時に意見を聞くなどし、計画作成担当者が中心となって介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは必要に応じて行っているが、定期的なモニタリングを行うには至っていない。		日々のケアの実践はプランに基づいて行われるものであり、ケアの変化とプランの変化は一体であることが望まれる。そのため、ケアの変更が必要であるかどうかのモニタリングを定期的に行って検証していくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院には基本的に家族が付き添っているが、家族の都合が悪い時や緊急時には職員が通院介助を行っている。また、遠出の外出等への付き添いなども職員が柔軟に対応し支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院に付き添うことになっているが、本人の状況についてはその都度家族へ情報を提供しており、通院後は家族が医師から聞いてきた指示を教えもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療体制が整っていないため、重度化や終末期のケアは現状では困難であることを入居時に十分説明して了解を得ている。また、機会あるごとに家族には説明をし、重度化や終末期に向けた相談等の支援をすることで、利用者や家族が安心してサービスの利用ができるように努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの生活歴等を把握しており、個人の尊厳を傷つけることのないよう声かけに留意し支援している。また、個人情報については鍵のかかるロッカーに保管するなど配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に細かい日課は定めていない。利用者一人ひとりのペースを大切にして見守りの支援を基本としている。散歩や買い物、外食などもできるだけ利用者の希望にそえるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好みを常に把握している。食事は職員と利用者が一緒に楽しんで食べており、調理、配膳、下膳なども無理のない範囲で手伝ってもらい一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日夕食後に希望者は入浴している。自立している方は一人で入浴を楽しんでもらい職員は見守りを行っている。入浴を拒否する方には声かけをするなど工夫して支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や散歩、買い物に出かけたり、野菜や草花の手入れ、習字、歌を歌うなど楽しんでもらえるよう支援している。月1回出かける外食も利用者の楽しみの1つとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはできるだけ散歩に出かけるようにしている。食材や日用品の買い物希望する場合も職員と一緒に出かけ楽しんでいる。また、事業所の屋上庭園で寛ぐなどの支援もしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所としては鍵をかけないケアを目指しているが、現在は不安定な利用者があるため、やむを得ず一時的に鍵をかけている。		入り口にチャイムを設置したり、利用者が安定するようなケアの工夫など、ハード・ソフト両面からの検討をし、鍵をかけないケアへの取り組みが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら訓練を実施している。災害時の連絡、協力体制はデイサービスセンター、ケアハウスと共通のもので、相互の連携が良くとれている。地域との連携は今後検討する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたホーム独自の献立を作成している。摂取量等については職員がこまめにチェックして把握しており、必要に応じて一人ひとりに合った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭の雰囲気が出せるよう配慮している。食堂兼リビングは明るく一部畳敷きとなっており、ソファーやコタツを配置して自由に寛げる空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりすることで居心地良く生活できるよう工夫している。居室を和室に改造している方もおり、個室にはトイレ、洗面台が設置され、利用者の利便性が図られている。		